

2) がん検診・特定健康診査の受診率の向上 【予算額 277千円】

区民のがん検診及び特定健康診査の受診率の向上を図るため、区広報紙やホームページによる年間の検診日程の周知、各事業・イベントなどを利用する。また、関係団体への普及啓発活動のほか、女性特有のがん検診推進事業(乳がん検診)における休日開催日を増やすことを検討するとともに、国民健康保険加入者を対象に区の広報紙など関係団体の協力を得て、広報・周知を行う。

- 目 標**
- ・保健福祉センターで実施するがん検診(胃がん)の受診者数:50人/回
 - ・部位別のがん検診受診率の目標値をそれぞれ次のとおり設定する
 - ・胃がん:4.4%以上
 - ・大腸がん:9.4%以上
 - ・肺がん:5.5%以上
 - ・子宮頸がん:19.3%以上
 - ・乳がん:12.6%以上(各がん検診とも、平成26年度実績の0.5%増)
 - ・特定健康診査の受診率:18.0%以上(平成26年度実績(17.2%)の0.8%増)

中間振り返り 目標達成(見込)

取組実績

- ・がん検診・特定健康診査の周知ポスターを各医療機関(医師会・歯科医師会・薬剤師会)へ持参し、掲示並びに啓発を依頼
- ・がん検診(胃がん)受診者数
4/25:53人、6/19:65人、7/2:66人 61人/回
- ・特定健康診査受診者数(国民健康保険+後期高齢者)
6/19:85人、7/2:55人、7/31:35人 58人/回

5 多様性を尊重しあう共生社会づくりの推進

- ・世代や性別、国籍・文化、障がいの有無などの違いを認め合い、個性と能力を發揮できる社会をめざして、多様な学習機会を提供するなど、さまざまな人権課題について市民協働的な手法で啓発に取り組む。
- ・人権啓発の新しい担い手づくりを進める。

1) 区における人権啓発推進・人権相談 【予算額 1,439千円】

区人権啓発推進協議会と連携して、地域に密着した人権啓発活動を実施するとともに、区役所において人権情報の提供並びに人権相談を実施する。

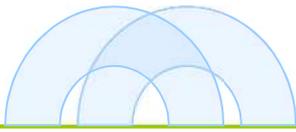
目 標 人権啓発事業の参加者のうち、人権問題への関心や意識を高めるうえで役立ったと思う人の割合 8割

中間振り返り 目標達成(見込)

取組実績

- ・人権展実務者会議：3回
- ・区広報紙掲載3回（就職差別撤廃月間・人権擁護委員特設相談所、レインボーカフェ交流会）
- ・区HP掲載2回（レインボーカフェ、レインボーカフェ交流会）
- ・レインボーカフェの開催（毎月1回、交流会1回）





経営課題4 「子どもの学び」と「子育て世代」を

応援するまちづくり

- ・子どもたちが自ら学び、考え、表現し、課題を解決できる力を育むとともに、いじめや不登校などの問題への対応、教師が学習指導に本来の力を注げる環境づくりを進める必要があります。
- ・分権型教育行政を推進し、学校との連携を深め学校運営に地域の実情を一層反映させていくなど、学力・体力の向上について、地域や区が持つ経営資源を活用した取組みが必要です。
- ・家庭学習が習慣になっている子どもの割合を増やす必要があります。
- ・区内の子育て支援団体やグループの活動を充実する必要があります。
- ・子育て世代が住みたくなる魅力を創造し発信する必要があります。
- ・平成27年度施行の子ども・子育て新制度が対象とする入所保留児童数に対する入所枠を確保する必要があります。

「子どもの学び」と「子育て世代」を応援するまちづくり



地域の強みを活かした教育力向上 他

子どもたちが自ら学び、考え、課題を解決し成長していく力をはぐくむほか、子育てしやすい環境を作る。

1 「子どもの学び」の応援

- ・学校・教育コミュニティのモニタリングと必要なサポートを行い、分権型教育行政を推進します。
- ・学校園や地域等と連携し、区の特性や強みを活かして「児童・生徒の学力・体力の向上」を目指した家庭教育支援と特色ある学校づくりの支援に取り組みます。
- ・学校園と協働し、教育相談等を通じて福祉的課題等をかかえる児童・生徒とその家庭への支援を行います。また、学校でのボランティア活動を支援するとともに、その人材確保に取り組みます。さらに、地域と連携し、子どもの見守りや健全育成などに取り組みます。
- ・教育環境の向上を図るため、小学校の適正配置について具体的な検討を進めます。

1) 分権型教育行政の推進、教育課題解決への取り組み 【予算額 76千円】

分権型教育行政を推進し、保護者や地域住民の学校教育への参加を促進しその意向を学校運営に反映して、より良い学校教育を推進する。また、保護者・地域住民、校長等の多様な意見・ニーズをくみ取り、学校だけでは解決できない横断的な課題への対応について学校を支援する。

目標 保護者・地域住民、校長等の多様な意見・ニーズをくみ取った新規の取組件数：2件

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・教育会議（区政会議・こども青少年部会）の開催：1回
- ・区教育行政連絡会の開催：小学校1回、中学校2回
- ・区内17校園の学校協議会への教育委員会兼務職員の出席：各1回
- ・区小学校長会・教頭会への出席・連絡調整：各5回

2) 家庭学習促進 【予算額 175千円】

家庭学習の促進を図るため、平成26年度に「港区版 家庭学習の手引き」を、平成27年度にその概要版パンフレットを作成。

平成28年度の新学期に新1年生の保護者に「港区版 家庭学習の手引き」を配布、また小学校の全保護者に対し、概要版パンフレットを配布し、学校・地域等と連携して活用を図る。

また、大阪市塾代助成事業など、学校外での学習の場への参加を促す取組を行う。

目標 家庭学習の促進に資するための、保護者・地域住民、校長等の多様な意見・ニーズをくみ取った新規の取組を1件以上行う。

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・家庭学習の手引きを作成し、新小学1年生の保護者に配布
- ・区民センター等の空き室を利用した自習室の開設

3) 地域の強みを活かした教育力向上 【予算額 730千円】

区内の教育資源(大阪プール、海遊館など)の活用など、地域の強みを活かした手法で、特色ある学校教育の充実や社会教育の機会の提供を行う。

目標 各取組メニューの提供先となる対象(学校や参加者など)へのアンケートにおける肯定的意見:7割以上

中間振り返り 目標達成(見込)

取組実績

- ・海遊館 2校・絵本による読書活動促進スタートアップ事業の実施 1回
- ・こどもサイエンスカフェの実施 5回
- ・「海・船のお話会と海の環境学習や体験型見学会」の参画・実施 3校 152名

4) 多文化共生教育スタートアップ事業 【予算額 3,588千円】

区役所、区保健福祉センター、学校、地域のNPO等が多文化共生教育を軸に連携して、外国籍住民のエンパワメント及び日本国籍住民の多文化共生の意識を醸成し、多様な人々がその能力を発揮できる多文化共生のまちづくりを推進する。そのため、教育を軸に多文化共生を推進するシステムを構築するためのスタートアップ事業を行う。

目標 ・学習サポート等派遣を実施した学校から「有効」との回答する割合:70%以上
・こども多文化カフェへの参加児童等のアンケートで「多文化共生に関心をもった」と回答する割合:60%以上

中間振り返り 目標達成(見込)

取組実績

- ・帰国・来日等のこどもへの学習サポート等派遣:通訳派遣が行える体制構築(8月)
- ・こども多文化カフェ:区内2カ所で各20回実施
- ・こども多文化カフェの参加者:小47名(うち1名辞退)、中10名(うち1名辞退)H28.5月 全11地域に補助金を交付。

5) 学校園における福祉的課題をかかえる児童生徒の支援 【予算額 - 千円】

社会福祉等の専門的な知識や技術に加えて教育分野に関する知識を有するスクールソーシャルワーカーを区内市立幼稚園及び小・中学校へ巡回・派遣するとともに、区専属の臨床心理士を配置し教育相談を行う。また、福祉的課題をかかえた児童生徒及びその家庭に対し、関係機関等のネットワークを通じた福祉施策の的確な活用など、多様な支援方法を用いて課題解決に向けた対応を行う。

目標 本事業が「有効」と回答した学校園の割合を80%以上にする。

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・スクールソーシャルワーカー 1人配置（54日、399h 従事）
- ・臨床心理士 1人配置（14日、84h 従事）

6) 発達障がいサポート 【予算額 3,885千円】

区内市立小・中学校及び幼稚園に在籍する発達障がい等のある児童生徒のうち、行動面で特に支援が必要とされるADHD等の重度な児童生徒に対し、遠足や社会見学等の校外学習や放課後の課外活動である部活動等をサポートするため、地域の人材を活用した発達障がいサポーターを配置する。

目標 本事業が「有効」と回答した発達障がいサポーター配置校園の割合：80%以上

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・発達障がいサポーターの配置時間：1007.5時間

7) 帰国・来日等の児童・生徒への学習サポート等 【予算額 577千円】

区内市立小・中学校に在籍する日本語での学習に支援が必要な児童・生徒の学習をサポートするため、地域の人材を活用したサポーターを配置する。

絵本ひろばのコーディネーターやファシリテーターとともにボランティアを学校に派遣し、学校での絵本ひろばの開催を促進する。

目標 日本語サポーターなどのボランティアサポーターへの配置・派遣が「有効」と回答したサポーター実施校の割合：70%以上

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・帰国・来日等の児童・生徒への学習サポーターの配置対象者数：8人
- ・帰国・来日等の児童・生徒への学習サポーター：380.75h
- ・学校における絵本ひろばの開催：1校

8) 別室登校等サポーター派遣 【予算額 670千円】

港区における中1ギャップ問題の解決に向けて家庭学習の促進を行うとともに、別室登校等サポーターによる不登校児童生徒等への対応策を実施する。

目 標 別室登校等サポート事業が「有効」と回答したサポーター配置校の割合：80%以上

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・不登校児童生徒等への別室登校等サポーターの配置：106h

9) 港区サードプレイス（こどもの居場所づくり） 【予算額 399千円】

子どもに家庭でも学校でもない、地域のボランティアが運営する第3の居場所（サードプレイス）を提供することによって、自由に話したり学習したりできる環境や、地域の人々とのつながりの中で生きる力・学ぶ力を育む。

目 標 複数回の参加者の割合：50%以上

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・居場所の開設：月1回（4月）、月2回（5月～）
- ・不登校など課題のある子どもとのかかわり方の講演会を実施

10) 小学校の学校配置の適正化 【予算額 - 千円】

教育環境の向上を図るため、小学校の適正配置について具体的な検討を行う。

目 標 具体的かつ現実的な学校適正配置計画案の作成

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・教育委員会事務局のヒアリング（6月）を受け、以後、調整を行っている。

11) 青少年の健全育成の推進 【予算額 403千円】

青少年の健全育成や非行防止を図るため、青少年指導員による街頭指導、夜間巡視、青少年福祉委員による社会環境浄化活動等に加えて、各中学校区の「青少年育成推進会議」における研修会の開催などを支援し、学校・家庭・地域が協働・連携して取り組む活動を推進する。

目標 青少年育成推進会議及び青少年指導員活動に参加した人数：3,000人

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・青少年育成推進会議における夜間巡視等の取組み
- ・こども110番の家事業の協力家庭等の地図の配布

2 「子育て世代」の応援

- ・共働き世帯のニーズにも応える多様な保育サービスの充実を図り、待機児童ゼロに向けた取組みを進めます。
- ・地域の子育て支援団体やグループと連携し、気軽に子育てについて相談できる体制を整えるとともに、区内の多様な子育て関係情報をわかりやすく提供します。

1) 保育所待機児童への対応 【予算額 - 千円】

低年齢児の保育所入所枠を確保するため「小規模保育事業」を実施し、事業所を確保するために事業者を公募する。

区役所の利用者支援専門員は、子ども及びその保護者等、または妊娠している方の個別ニーズや状況を把握する。そのニーズや状況に応じて認定こども園・幼稚園・保育所や一時預かり、放課後児童クラブ等の地域子育て支援事業等の中から適切なものを選択し、円滑に利用できるように支援する。

目標 小規模保育事業所を少なくとも1ヶ所新設する。

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・小規模保育所 1か所新設

2) 子育て支援情報の提供 【予算額 412千円】

子育てされている方をサポートするために、子育て支援情報を的確に提供するほか、乳幼児健診時に状況に応じた支援や相談、情報提供を実施する。また、必要に応じ家庭訪問を実施する。

子育て支援情報を関係機関と連携して積極的に発信し、地域の身近なところで子育ての相談ができるしくみを作る。

目標 子育て情報が役にたったと答えた区民の割合が80%。

中間振り返り 目標達成(見込)

取組実績

・区広報紙7月号で子育て特集号作成・配布、乳幼児健診時に子育て情報提供・相談 15回(8月末現在)

3) 子育て相談機関による支援の充実 【予算額 - 千円】

子ども・子育てプラザによる子育て支援講座や親子イベントの開催、子育てサロンやサークルの活性化に向けた支援を実施する。

プラザ、はっぴいポケットみ・な・と、子育て支援センターによる親子のつどいの場を通し、親同士の交流や情報交換、また、児童養育等に関する相談に応じる。

子育て支援機関が要保護児童の情報を共有し、相談機能や対応力を向上させる。

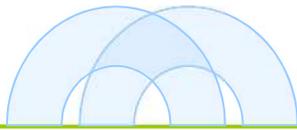
目標 「子育て支援室」、子ども・子育てプラザ、はっぴいポケットみ・な・と、子育て支援センターとの4者会議を年12回(月1回)実施。

中間振り返り 目標達成(見込)

取組実績

・子育て支援室と子育て支援機関との4者会議 5回、子育て支援連絡会 5回(8月末現在)





経営課題5 訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり

- ・港区に住む魅力を発信し、まちの活性化につなげる必要があります。
- ・港区の魅力ある地域資源を広く周知活用しながら、地域、商店、企業等の様々な主体が連携協働して取り組む機会の提供を行い、ビジネスチャンスにつなげることで、地域の活性化を図っていく必要があります。
- ・大阪の集客観光拠点の重点エリアに位置づけられている築港地区において、豊富な観光資源を活かした観光施策と連携して、まちづくりの視点から地域の活性化を図っていく必要があります。

訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり



海と川をつなぐ水辺のにぎわいづくり 他

築港地区を始め、各地域の魅力ある資源をいかして、まちのにぎわいを生み出し、経済の活性化を図る

1 地域資源を活かしたまちの活性化

- ・ 特色やオンリーワンの技術を持つ企業や商店の紹介など区内の魅力ある事業者の紹介によるまちの魅力発信を行います。
- ・ 事業連携によるビジネスチャンスを広げるため、区内外の商工業者同士の交流機会を提供します。
- ・ 地域や事業者等との連携による地域資源を活かした商店街の取り組みを支援します。
- ・ 「夕陽」や「ひまわり」、「あなご」など港区の地域資源をベースにしたオリジナルな商品「みなトクモン」を創出する取り組みを積極的に広報・周知することによりまちの魅力を発信し、区民の「わがまち」への愛着を高めます。
- ・ 地域の魅力ある資源を活かした商品づくりに向けて、事業者へ港区名物をつくる「みなトクモンプロジェクト」への参画を働きかけるとともに、地域や商店街とも連携しながら、「みなトクモン」の販売機会を拡充し認知度の向上を図り、「みなトクモン」をツールとしてまちの活性化につなげます。

1) 商工業者のビジネス機会の提供 【予算額 - 千円】

企業や商店などの事業者に対してビジネス支援情報を提供するとともに、事業者同士の出会いの場の提供やマッチングをサポートすることにより、ビジネス機会の創出につながる支援を行う。

目 標 ビジネス機会の創出につながる連携件数：3件以上

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・ 区内事業者（不動産業、製造業、飲食業等）にビジネス情報、連携先を紹介

2) 港区の魅力発掘・創出 【予算額 1,371千円】

「夕陽」や「ひまわり」、「あなご」など港区の魅力をモチーフにしたオリジナルな商品等を開発する事業者等を側面的に支援し、開発された商品等を港区の名物「みなトクモン」として積極的に広報・周知することにより、商品としての魅力をアピールして地域経済の活性化をめざす。

また、「みなトクモン」を通じて区民の「わがまち」への愛着を醸成し、まちの魅力を共有することで、「住んで誇りに思えるまち」をめざす。

目 標 「みなトクモン」の区民モニターアンケートによる認知度：50%以上

「みなトクモンのたまご」を活用して創出が見込まれる商品等の数（5品）

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・みなトクモン広報ツールの充実（みなトクモンアプリ、みなトクモン作り手紹介、みなトクモンカード等）

3) 地域や事業者等と連携した商店街による取り組みの支援 【予算額 - 千円】

区役所が持つネットワークや情報発信力を活用して、地域や事業者等との連携による地域資源を活かした商店街の取組を支援する。

目標 地域や事業者等と連携した商店街による取組の件数：3件

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・繁栄商店街の繁栄ワイワイ実行委員会、八幡屋商店街のメンバーを中心としたみなとまちかど音楽実行委員会、港ワイワイ実行委員会の立ち上げ支援と地域・事業者等との連携調整

2 まちの魅力の発信

- ・交通の利便性や豊かな歴史・文化資源など、港区に住む魅力について、マスコミ等への情報提供により、積極的に発信します。
- ・特色やオンリーワンの技術を持つ企業や商店の紹介など区内の魅力ある事業者を紹介することによって、まち魅力の発信を行います。
- ・「夕陽」や「ひまわり」、「あなご」など港区の地域資源をベースにしたオリジナルな商品「みなトクモン」を創出する取組を積極的に広報・周知することにより、まちの魅力を発信し、区民の「わがまち」への愛着を高めます。

1) 港区に住む魅力の発信 【予算額 - 千円】

交通の利便性や豊かな歴史・文化資源など、港区に住む魅力について、マスコミ等への情報提供により、積極的に発信する。

目標 マスコミ等による情報発信：4回

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・マスコミ等による記事掲載等の情報発信回数：2回

2) 港区の魅力発掘・創出 【予算額 1,371千円】

「夕陽」や「ひまわり」、「あなご」など港区の魅力をモチーフにしたオリジナルな商品等を開発する事業者等を側面的に支援し、開発された商品等を港区の名物「みなトクモン」として積極的に広報・周知することにより、商品としての魅力をアピールして地域経済の活性化をめざす。

また、「みなトクモン」を通じて区民の「わがまち」への愛着を醸成し、まちの魅力を共有することで、「住んで誇りに思えるまち」をめざす。

目 標 「みなトクモン」の区民モニターアンケートによる認知度：50%以上

「みなトクモンのたまご」を活用して創出が見込まれる商品等の数（5品）

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

・みなトクモン広報ツールの充実（みなトクモンアプリ、みなトクモン作り手紹介、みなトクモンカード等）

3 築港地区のにぎわいづくり

・観光施策と連携して、まちづくりの観点からソフト・ハード両面の環境整備を進め、エリアイメージの向上とブランド化に取り組むことにより、にぎわいの創出や子育て世代の居住促進を図り、地域の活性化をめざします。

1) 「築港・天保山地区まちづくり計画」策定に向けた検討調査

【予算額 5,326千円】《新規》

住居生活・集客観光・港湾物流機能が併存するといった特性を持つ築港・天保山エリアにおける現状と課題について、副市長をリーダーとする「築港・天保山まちづくり計画」策定プロジェクト会議（庁内検討体制）を構成する関係各部局が共有し、多角的な観点を踏まえた調査検討を行い、本プロジェクト会議において将来的なまちづくりの方針を決定する。方針を踏まえて民間活力を活用した官民協働による中長期的な「築港・天保山まちづくり計画」を29年度末までに策定する。

目 標 広域と基礎行政の連携により、「ベイエリアの魅力あふれる訪れたいまち・住みたいまちの実現」「水都大阪の玄関口として世界にアピールする集客観光拠点の形成」をめざす、まちづくりの方針を作成する。

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

・7月委託事業者決定、8月WG開催、9月アンケート・ヒアリング開始

2) 海と川をつなぐ水辺のにぎわいづくり 【予算額 1,000千円】《新規》

大阪の海の玄関口である大阪港、築港地区の歴史的価値・特性を再発見するとともに、水資源でつながった地域の歴史・文化・景観資源を生かした観光集客とまちづくりを市民協働・官民協働を進めることを目的として、水都大阪としての魅力発信となる水辺のにぎわいイベントと、大阪の発展を港と川という水のルートでたどる舟運の社会実験を実施する。

目標 イベント来訪者への満足度調査結果： 70%以上

イベント事業者の継続実施の意向調査結果： 60%以上

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

・6月からイベントの企画内容を検討する会議を毎月開催



4 まちづくりに向けた行政資産等の活用

・これからのまちづくりの方向性を踏まえ、弁天町駅前土地区画整理記念事業用地や市岡商業高校跡地、弁天埠頭、JR臨港（貨物）線跡地、また、中央体育館や大阪プールを擁する八幡屋公園など、区内の遊休地や資産の活用について、関係局と連携して活性化策の検討を進めます。

1) 弁天町駅前土地区画整理記念事業に係る検討 【予算額 - 千円】

現在の区民センターや老人福祉センター、子ども・子育てプラザを廃止して、子どもから高齢者まで幅広い世代が活動・交流できる「（仮称）区画整理記念・交流会館」として再構築し、まちづくりの資産として活用する。本施設の整備（平成33年度完成予定）により、コミュニティをさらに活性化し、将来にわたって活力とうるおいのあるまちづくりを進めるとともに、共同事業者である大阪みなと中央病院と連携して地域医療・災害時医療の拠点機能の形成をめざす。また、この事業に対する区民の認知度を高めるため、事業に関する広報を継続して行う。

目標 （仮称）区画整理記念・交流会館の建設に向けた事業手法の検討等の進捗に合わせ、基本構想の内容をハード面に反映させる。

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

・5～7月に都市整備局が交流会館の民間等附帯施設に関するマーケットリサーチを実施。リサーチ結果及び基本構想を踏まえ、事業手法を検討している。

2) 八幡屋公園の利活用 【予算額 - 千円】

国際レベルのスポーツ施設である大阪市中央体育館や大阪プールや八幡屋公園の利用を地域や学校園等に促し、まちづくりの資産や教育資源として活用する。

目標 八幡屋公園で開催されるイベント・行事等の発信：3回以上
八幡屋公園でのイベント等の参加者：300人以上

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

・7月水遊びしチャオ開催
・8月サイエンスカフェ（園内での虫取り）開催
・10月区民まつり、サイエンスカフェ（同上）

3) 市岡商業高校跡地、弁天埠頭などの有効活用 【予算額 - 千円】

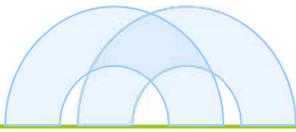
市岡商業高校跡地などのまちの資源、資産について、地域の声を踏まえながら、まちづくりに有効な活用策を検討する。

目 標 関係局との調整を図りながら、まちづくりの観点から有効な活用策について、地域の声を踏まえて方向性を決定する。

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

・まちづくりの観点から有効な活用策について資産を所管する局等との協議調整



経営課題 6 区民意見を反映した区政運営

- ・区内の実情や特性に即して施策・事業を総合的に展開するとともに、その取組や成果についての情報を積極的に発信していく必要があります。
- ・多様な区民の意見・ニーズを的確に把握する必要があります。
- ・安全・安心など区民の日常生活に関する相談や要望を総合的に受け付け、解決に導くための機能を備える総合拠点として、区民が利用しやすい便利で親切的な区役所づくりを進める必要があります。
- ・施策・事業についての成果を区民が評価し、施策・事業の改善や新たな展開につなげていく必要があります。
- ・港区が住みやすいまちであると感じられる魅力ある情報の発信など、暮らしに必要な情報を発信していく必要があります。

1 多様な区民の意見・ニーズの的確な把握

- ・区政運営について、区民モニターアンケートや「市民の声」などを通じて、多様な区民の意見やニーズを的確に把握し区政に反映します。
- ・区民の日常生活の安全・安心を担う身近な総合行政の拠点として、区民から寄せられるさまざまな相談や要望を受け付け、各局と連携し適切に対応します。

1) 区の広聴関係事業 【予算額 126千円】

「区民モニターアンケート」「市民の声」「み・な・と改善箱」、「みなりんリンプロジェクト」、「twitter」を通年実施

区政・市政に関する区民の意見・要望等に対して適切かつ迅速に対応し、説明責任を果たすとともに、意見やニーズを的確に把握し区政に反映する。

目 標 区民からの意見に対する区の対応について、本人の同意を得て区の広報紙やホームページ、掲示板などで公表した件数：全件

中間振り返り 目標達成（見込）

課題と改善策 区民から寄せられた意見・要望等について、適切かつ迅速に処理を行い、理解が得られるよう説明責任を果たしていくとともに、区民意見を反映した区政運営を実現していく必要がある。

取組実績

- ・区民からの意見等について、本人同意の下、HPや掲示板で全件公表。意見等については適切かつ迅速に対応し、理解が得られるよう説明責任を果たしている。

2) 区役所の相談機能の強化 【予算額 - 千円】

日常生活に関する様々な相談や要望を窓口や電話、郵便、インターネットなどにより受け付け、関係局と連携して適切に対応するとともに、状況を相談者等にフィードバックするなど、市政の総合窓口としての役割を果たす。

目 標 日常生活に関する様々な相談や要望について、区役所が適切に対応していると感じる区民の割合
75%

中間振り返り 目標達成（見込）

課題と改善策 受け付けた相談や要望及び意見に対しては全件適切に対応しているが、サービスの受け手である相談者等の視点に立った指標ではないという区政会議での意見も踏まえ、区役所が適切に対応していると感じる区民の割合 75%に改める。

取組実績

・要望等に対しては全件適切に対応。但し区政会議での意見を踏まえ業績目標については見直しを行った。

2 区政の参画と協働による区政運営

- ・区政運営について、区政会議や区民モニターアンケートなどを通じて、計画段階から多様な区民の声を踏まえて進めるとともに、より多くの区民からの評価をいただき区政に反映させます。
- ・区の様々な取組（施策・事業・イベントなど）の企画・計画段階から区民の意見や要望を把握し、反映させます。
- ・教育行政連絡会議や区教育会議（区政会議・子ども青少年部会）を活用して、学校・地域・保護者の多様なニーズをくみ取った教育施策を推進します。

1) 区政会議の運営 【予算額 709千円】

地域活動協議会の代表者や公募の区民等による「区政会議」において、区の施策や事業についての意見や評価をいただく。

目 標 区政会議での意見や評価を施策・事業に反映した件数：10件

中間振り返り 目標達成（見込）

課題と改善策 資料をわかりやすい内容にしたり、事前配布により会議までに内容をご確認いただくなど、区民から様々なご意見をいただけるよう会議運営について工夫していく必要がある。

取組実績

・委員から出た意見については区政に反映するよう努めている。より資料をわかりやすい内容にし、事前配布を行うとともに、区政会議で幅広い意見交換ができるよう、員の意見を照会している。

2) 分権型教育行政の推進、教育課題解決への取り組み

【予算額 76千円】(再掲)

分権型教育行政を推進し、保護者や地域住民の学校教育への参加を促進し、その意向を学校運営に反映して、より良い学校教育を推進する。また、保護者・地域住民、校長等の多様な意見・ニーズをくみ取り、学校だけでは解決できない複合的な課題への対応について学校を支援する。

目 標 保護者・地域住民、校長等の多様な意見・ニーズをくみ取った新規の取組件数：2件

中間振り返り 目標達成(見込)

取組実績

- ・教育会議(区政会議・こども青少年部会)の開催：1回
- ・区教育行政連絡会の開催：小学校1回、中学校2回
- ・区内17校園の学校協議会への教育委員会兼務職員の出席：各1回
- ・区小学校長会・教頭会への出席・連絡調整：各4回

3 区政情報の積極的な発信

・多様な区民の意見やニーズを踏まえた施策・事業を実施し、その取組や成果等についての情報が区民全体に届けられるようきめ細やかな情報発信を行います。

1) 施策・事業の積極的発信 【予算額 18,374千円】

地域の実情や特性に応じた施策や事業を各部局と連携して実施し、その取組や成果を区の広報紙やホームページ、区長自らのツイッターなどで積極的に発信する。

目 標 「港区の施策・事業に関する区長からのメッセージやお知らせを読んだことがある」と答えた区民の割合：80%

中間振り返り 目標達成(見込)

課題と改善策 区長メッセージについて、一定期間ホームページのトップページに掲載し、掲載告知をツイッター等により複数回実施するなど、常に閲覧できる状況をつくる必要がある。

取組実績

- ・区長メッセージの区HP等への掲載5回、ツイッターへの投稿90回(8月末現在)。一定期間ホームページのトップページへの掲載など閲覧されやすい工夫を実施。

4 区民が利用しやすく、信頼される区役所づくり

- ・ 区民が快適で利用しやすい区役所となるよう、庁舎案内の改善や窓口対応の向上を図るとともに、来庁者の声を適切に把握し改善につなげます。
- ・ 区役所業務について、業務プロセスの改善・事務の集約化などにより、効果的・効率的に運営するとともに、区民に必要な情報を的確に発信します。

1) 暮らしに必要な情報の発信 【予算額 18,374千円】

交通の利便性や豊かな歴史・文化資源など、港区に住む魅力や暮らしに必要な情報について積極的に発信する。

目 標 マスコミ等による記事掲載等の情報発信回数：5回

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・ マスコミ等による記事掲載等の情報発信回数：2回

2) 窓口業務におけるサービスの向上 【予算額 - 千円】

区民が快適で利用しやすい区役所となるよう、庁舎案内の改善や窓口対応の向上を図るとともに、みなと改善箱等に寄せられた区民の意見等を踏まえ、区役所サービスの向上に向けた取組を推進する。

目 標 区役所を過去1年間に訪れた区民のうち、来庁者への案内サービスや窓口での対応が良いと感じた区民の割合：平成29年度までに 80%以上

中間振り返り 目標達成（見込）

取組実績

- ・ 窓口サービス向上委員会の開催（毎月）、接遇研修の実施（8・9月）

3) 区民が納得できる効果的・効率的な業務運営 【予算額 - 千円】

区役所業務について、業務プロセスの改善・事務の集約化などにより、効果的・効率的に運営するとともに、区民に必要な情報を的確に発信する。

目 標 効果的・効率的な業務運営に向け、区の実情や特性に即して区役所の取組が進められていることを知っている区民の割合：29年度までに 60%以上

中間振り返り 目標達成（見込）

課題と改善策 ・ P D C A サイクルの徹底による事務事業の見直しや 5 S の取組による業務の効率化など、業務運営の向上に一層取り組み、その取組についての情報を発信していく必要がある。

取組実績

・ P D C A サイクルの徹底による事務事業の見直しや 5 S の取組による業務の効率化など、業務運営の向上に取り組んでいる。



【区運営方針と区運営方針概要版に関するお問い合わせ】

大阪市港区役所総務課（区政統括グループ）

所在地：大阪市港区市岡1-15-25

電話：06-6576-9885

FAX：06-6572-9511

ホームページ：<http://www.city.osaka.lg.jp/minato/>

ツイッター：<http://twitter.com/minatokuyakusyo>

フェイスブック：<http://www.facebook.com/minatokuyakusyo>